爆弾

火薬は大砲や火縄銃を発射するための原動力であるが、爆弾の材料としても利用された。この図は『武器皕圖』の一コマで、数種類の火薬類が描かれている：

（1） 信管で発火させる手榴弾
（2） 大口径火縄銃用の炸薬弾
（3） 地雷
（4） 砂時計型手榴弾
（5） 爆薬砲弾（盆貌弾、英語の "bomb "に由来）
（6） 布や藁で編んだ袋に入れて携帯し、投擲した榴弾クラスター爆弾（葡萄弾）

初期の手榴弾（右のケースに展示）は、釉薬のかかった陶器の壷に火薬と榴散弾を詰めたものである。その後、2 枚の銅製の半球に火薬と鉄片を詰め、布で包み、漆を塗ったものが作られた。第二次世界大戦末期、金属が不足したため、軍は応急処置として再び陶製の手榴弾を作った。